

編集後記

3月の声を聞くと、年度末であると同時に卒業、退職、転勤等別れの季節が今年もやって来たと感じます。

かくいう私も交流協会に1973年（昭和48年）に奉職してから約40年の月日が過ぎ今年の3月末で退職することになりました。

ここに交流協会における自分史的なものを述べさせていただきます。勤務当初（1973年）は経済部その後技術協力部に名称変更（現在は貿易経済部）に配属され、国際協力機構（JICA）が実施しています（研修員受入れ、専門家派遣）を主に台湾に対する技術協力事業に携わりました。ODA予算の伸びが著しい時期経済部では、年間200名を越える研修員を台湾から受入るとともに、一方年間100名を越える専門家を台湾に派遣していました。

また、1976年（昭和51年）からは、財団法人海外産業人材育成協会（元AOTS）が実施しております産業技術研修生の研修生受入事業の台湾版にも携わっていました。

しかしながら、台湾の経済成長に伴いODA対象から外されたことにより、台湾に対する技術協力関係の事業予算は2002年（平成14年）に終了することになりました。

私は、2001年（平成13年）に総務部に移り日本語能力試験（現在は国際交流基金に移管）・後援助成事業・文化人招聘・日本語専門家派遣、共同研究、雑誌「交流」の編集等文化関係の事業に携わってまいりました。台湾は日本語世代が年々減少していますが、一方高校・大学生は第二外国語として日本のアニメやポップカルチャーの影響により日本語を選択している若者が他の外国語（ドイツ語・フランス語等）に比べ非常に多いのは大変喜ばしいのですが、しかし日本についての正確な知識等に欠けているのが現状であり、今後親日派・知日派を増やすため、台湾における日本研究等の促進に当協会の側面的な協力を通じ若者に日本理解を深めてもらうことが不可欠であると思います。

最後に、執筆者の皆様及び読者の皆様並びに関係各位には色々とお世話になりまして誠にありがとうございました。

日本と台湾との関係が益々発展することを祈念するとともに、今後とも「交流」のご愛読をよろしくお願い致します。

（総務部 藤本徳司）